

強者の戦略

2026 年度 京大世界史 第3問〔問題編〕

今回は 2026 年度の京大の第3問を解説したいと思います。京大の第3問は欧米史になることが多く、2026 年度も戦間期の欧米史でした。ぜひチャレンジしてみてください。なお、本原稿における解答や解説は、京都大学が公表したものではなく、研伸館が独自で作成したものになります。

Ⅲ 世界史探究問題

二つの世界大戦にはさまれた時期、欧米諸国などでは、国民経済の運営や個々の国民の生活に政府・公権力が大きく介入するようになったが、その性格は国によって大きく異なった。1928 年以降のソ連、1933 年以降のアメリカおよびドイツについて、それぞれの性格を、経済運営および国民の政治的自由や人権に着目して、三者の相違が明らかになるように、300 字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

2026 年度 京大世界史 第3問〔解答解説編〕

【解答】

ソ連は社会主義体制の下、五ヵ年計画による計画経済を実施した。政治的にはスターリンの独裁の下に粛清や強制労働が行われ、共産党による一党独裁であり、政治的自由や人権は抑圧された。アメリカでは政府が経済への規制・介入や公共事業の推進などを行うニューディール政策が行われた。しかし、経済体制は資本主義体制のままであり、ワグナー法で労働者の権利を保障するなど、民主主義を維持・強化した。ドイツはナチ党によって資本主義体制を維持しながら四ヵ年計画に基づく統制経済を実施し、軍需産業を中心に経済を再建させた。政治的には全権委任法によって一党独裁を確立し、反対勢力の弾圧やユダヤ人への民族的な人権剥奪を法的に行った。(300 字)

【解説】

【論題】

1928 年以降のソ連、1933 年以降のアメリカおよびドイツにおけるそれぞれの性格
〔条件〕 経済運営および国民の政治的自由や人権に着目し、
三者の相違が明らかになるように

まず問題文の「二つの世界大戦にはさまれた時期、欧米諸国などでは、国民経済の運営や個々の国民の生活に政府・公権力が大きく介入するようになったが、その性格は国によ

強者の戦略

って大きく異なった。」この部分に注目しましょう。論題の“1928年以降のソ連、1933年以降のアメリカおよびドイツ”は、いずれも「国民経済の運営や個々の国民の生活に政府・公権力が大きく介入」しました。つまりこの点を共通点として、この3国の性格の相違を、経済運営および国民の政治的自由や人権に着目した上で明らかになるように説明することになります。

では、論題の〔条件〕からみていきましょう。

【1928年以降のソ連】

◆経済運営

- ・社会主義国家による計画経済である五カ年計画を実施
- ・世界恐慌の影響を受けず、工業化を達成

◇政治的自由・人権

- ・スターリンの独裁体制の下、粛清や強制労働
- ・政治的自由や人権の極度の抑圧

【1933年以降のアメリカ】

◆経済運営

- ・政府が経済への規制・介入や公共事業の推進などを行うニューディール政策（公共事業・雇用創出・労働者保護など）

◇政治的自由・人権

- ・民主主義体制と国民の基本的人権・政治的自由を維持（ワグナー法など労働者の権利の向上）

【1933年以降のドイツ】

◆経済運営

- ・ナチ党（ヒトラー）政権による国家統制
- ・軍需産業中心・アウトバーン建設などの経済政策（四カ年計画）

◇政治的自由・人権

- ・全権委任法による一党独裁と民主主義崩壊
- ・ユダヤ人差別・迫害や反体制派の抑圧など人権の激しい侵害

●構想メモ（三者の相違を明らかに）

	ソ連	アメリカ	ドイツ
経済運営	社会主義的計画経済 （五カ年計画）	修正資本主義 （ニューディール政策）	国家統制下の資本主義 （四カ年計画）
政治的自由・人権	なし	あり	なし

構想メモでは、＜条件＞である「三者の相違が明らかになるように」まとめてみました。解答例を参考に論述してみてください。